

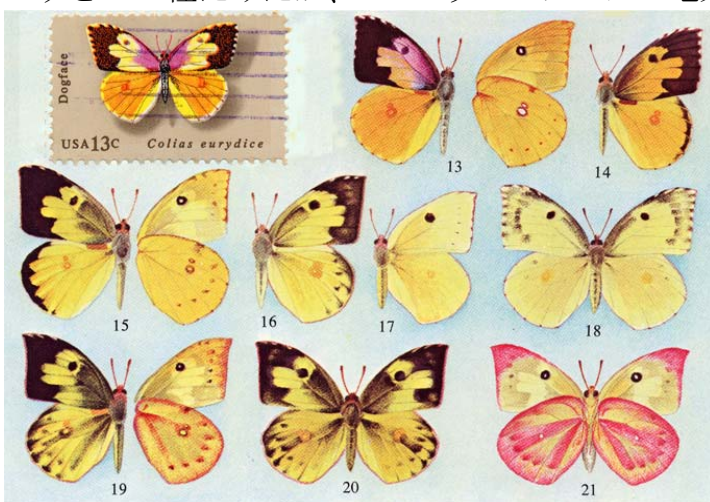
モンキチョウは"紋のあるキチョウ"で、"紋のあるシロチョウ"がモンシロチョウ。モンキチョウは北海道から八重山諸島まで全国に分布している。モンシロチョウも含めごく普通にみられるチョウは、よほど必要がないかぎり新しい標本を作らないため、1968年の標本写真を示しておく。羽の色が黄色いのは例外なく♂だが、♀は白と黄色両タイプがいるやっかいなチョウである。



2009年10月1日、高砂市西畑にあった花畑で黄色♀の交尾個体を観察記録できている。筆者にとっては初めて見る黄色型の♀で、そっと持ち帰り交尾は1時間半後に解けたのだが飼育下に産卵はしてくれなかった。松波町周辺でモンキチョウの幼虫はシロツメクサ（クローバー）やアカツメクサを食べているが、荒井町浜風公園の芝生内に自生している、シルビアシジミの食草でもあるミヤコグサでも発生している。シルビアシジミの飼育用に加古川からミヤコグサを持ち帰った際にモンキチョウの卵がついており、クローバーで育ててきれいな白色♀を羽化させ、自宅のバルコニーから野外へと放してやった。

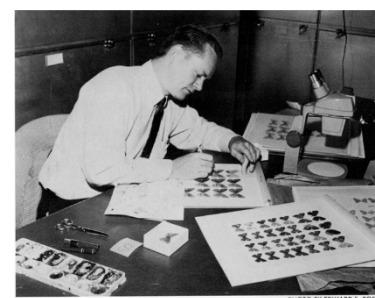


モンキチョウは世界中で約80種を含む *Colia* 属に属し、日本では本州の中部山岳地帯だけにみられる準絶滅危惧種選定のミヤマモンキチョウとの2種だけだが、ヨーロッパのアルプス地方や北アメリカなどに多い種類である。その北アメリカに、前にキチョウの項で触れた”Dog Face”と称される面白い模様の仲間がいて切手にもなっている。前翅黄色部分に目もあってどうみてもかわいいワンちゃんの顔だ。



ところで、右のチョウの図が写真ではなくすべて手描きだといったらすぐに納得がいくだろうか？これらは William H. Howe という昆虫学者でもある画家が全てのチョウを手で描き上げた“THE BUTTERFLIES

OF NORTH AMERICA” Doubleday & Company, Inc (1975) というカラー図版 97、描かれたチョウの数 2093、総ページ 633、厚さ 5cm という膨大な図鑑から転載 (PLATE 75) したもので、彼が実際にチョウを描いている様子が本の裏カバーに示されている。ヨーロッパにも“A Field Guide to the Butterflies of Britain and Europe” Collins (1970) という図鑑があつてこれも 760 以上のチョウがカラー手描き。筆者の手元には 1954 年発刊のきれいな写真による原色日本蝶類図鑑があり、カラー写真製版技術があるのに手描きにこだわった理由は何だろうか。いずれにしてもすごいテクニックである。



William H. Howe, of Ottawa, Kansas, is a professional artist and lepidopterist whose paintings—exhibited in museums throughout the country and most recently in the Smithsonian Institution—have received widespread acclaim. As co-ordinating editor of this volume, Mr. Howe

Sep. 30, 2017 つい秋風に誘われて

ぬけるような青空の初秋、秋風に誘われて加古川河川敷へとチョウタイム・サイクリング。モンキチョウが川べりに咲くセンダングサの黄色い花で吸蜜する光景が絵になるので、濃い青



空を背景に撮影すると、比較的きれいな飛翔映像が記録できている。

May 24, 2018 平荘町の休耕田花畑

ウラギンスジヒョウモンの生息地に立ち寄って幼虫や蛹を性懲りもなく探してもやはり発見できず、アカツメクサの花蜜に夢中となっているモンキチョウを撮影。



June 13, 2018 平荘町の休耕田花畑

ヒメジョオンの花畑で蜜を求めるモンキチョウ、翅表がすっかり黒ずんだベニシジミ、キタテ



ハなどを撮影。ウラギンスジヒョウモンの♂が♀を探して柿の木
の陰部分へと潜り込んだりするので追いかけてみるが姿を見失う。モンキチョウの交尾個体が梅の木の高いところへと飛んで落ち着いたところを撮影



June 21, 2018 ヒメヒカゲ調査と平荘町の休耕田花畑

ヒメヒカゲの生息調査を終えて自転車を踏み出そうとする段階での最後の見送りはモンキチョウだがヒメジョオンの蜜に夢中で当方には全く関心なし。帰路に再び立ち寄った休耕田では、黄色型の♀に求愛する2頭の♂が負けてはなるまいと競っている。

